

## 小児カンピロバクター腸炎の臨床的検討

にし の やす お  
西 野 泰 生

キーワード：感染性胃腸炎，カンピロバクター腸炎，  
ロタウイルス胃腸炎

### 要 旨

カンピロバクターは小児の細菌性腸炎の主病原であり，疫学調査は小児科定点で感染性胃腸炎として観察されている。しかしこれに含まれる病原は多種であり，個々の病原の病態については明らかにされていない。今回は細菌性腸炎であるカンピロバクターをロタウイルスの病像と対比しながら感染像を検討した。カンピロバクターは5~6月に多く，年齢的には8~9歳にピークがみられた。臨床的には腹痛，下痢は全例，発熱頻度も80%と高率であった。下痢回数も10回以上が40%であり，裏急後重も33%にみられた。これらの病状は嘔吐を主徴とするノロウイルスとは相違しており，病初における両者の鑑別に有用であった。治療としては全例にクラリスロマイシンを投与し24時間以内に病状の好転が得られた。感染源は生食肉摂取など食肉との関連が重視された。

### はじめに

カンピロバクターは細菌性胃腸炎の病原として最も重要であり，日常診療でもしばしば経験する疾病である。しかし，疫学的には他の細菌，ウイルスによる胃腸炎とともに感染性胃腸炎として総括されており，このため個々の病原についての病態は明らかではない。今回は最近経験したカンピロバクター腸炎について，ウイルス性胃腸炎の代表であるノロウイルスを対照にその病態を検討したので報告する。

### I. 対象および検索法

2003年より2008年6月までにカンピロバクターを分離した急性胃腸炎30例を対象とした。対象は主に小児であったが，一部成人例も含まれている。病原検索は全例直腸ぬぐい液を用い，採取後直ちに輸送用培地に保存，可及的速やかに検査室（ファルコバイオシステム）に送った。なお対照としたノロウイルス症例のデータはすでに発表した著者論文<sup>1)</sup>より引用した。

### II. 結 果

#### 1. 発生状況 月別発生状況

カンピロバクターは3~8月の晩春から初夏に

Yasuo NISHINO

西野小児科アレルギー科医院

連絡先：〒690-0056 松江市雑賀町433